

みは
ら再発見!

男女共同参画社会をめざす情報誌
ウィズユー

with YOU

あなたとともに… 第14号



認めあい 共に歩もう 多幸のまち

平成25(2013)年度男女共同参画施策の進捗状況

市では、男女共同参画社会の実現を総合的かつ計画的に推進するため、「三原市男女共同参画プラン(第2次)〔計画期間 平成24年度～平成28年度〕」を策定し施策を推進しています。

情報誌で市民の皆さんに、三原市男女共同参画プラン(第2次)で目標値を設定している施策のうち、平成25年度の主な進捗状況を公表します。

基本目標①男女共同参画を進めるための人づくり

評価項目		平成24年度	平成25年度	目標 (平成28年度)
政策・方針決定過程 への女性の参画促進	女性リーダー育成塾(仮称)の開催	1回	1回	1回以上
	女性委員候補者リスト新規登録者数	10人	5人	25人
	男女共同参画セミナーの参加者数	227人	211人	255人以上
	各種審議会における女性委員の割合	23.6%	23.9%	30%以上
教育・学習の推進	新学習指導要領の内容に即した 指導計画の作成	—	整備	整備
	男女共同参画に関する世代別教育 プログラムの整備・充実	—	—	整備

基本目標②男女共同参画を実現するための環境づくり

評価項目		平成24年度	平成25年度	目標 (平成28年度)
広報・啓発の充実	市民協働ホームページへの登録団体数	74団体	78団体	120団体(H26)
職場における 男女共同参画の推進	家族経営協定の締結数	0件	0件	7件
	女性の参画により「6次産業化」 など経営の多角化を進めている 法人数	2法人	2法人	5法人
	起業家支援セミナー受講者数(累計)	9人	7人	25人
家庭における 男女共同参画の推進	男性向け介護教室の開催	—	—	実施
	家族介護者交流事業の男性参加者数	67人	55人	60人
	延長保育事業実施箇所数	12カ所	12カ所	11カ所(H26)
	休日保育事業実施箇所数	1カ所	1カ所	1カ所(H26)
	病児・病後児保育事業実施箇所数	3カ所	4カ所	4カ所(H26)
男女間の暴力の根絶に 向けた取組みの推進	一時預かり事業実施箇所数(幼稚園)	6カ所	5カ所	7カ所(H26)
	相談しやすい体制 (人口10万人当たりの相談件数が県平均以上)	219件	436件	300件
地域における 男女共同参画の推進	地域別ミニ集会の参加者数	86人	91件	150人

基本目標③男女共同参画を支える社会づくり

評価項目		平成24年度	平成25年度	目標 (平成28年度)
市民団体等との協働に よる男女共同参画の推進	出前講座の利用件数	964件	867件	890件以上
生涯を通じた 健康づくり支援	朝食をたべる人の割合	87.3%	—	90%以上(H26)
	乳がん健診の受診率	23.1%	21.9%	28%以上(H26)
高齢者等が安心して 暮らせる環境づくり	要介護認定率	20.8%	20.6%	20%(H26)
	認知症サポーターの人数(累計)	7,846人	8,936人	8,900人(H26)
子どもがのびのび 育つ環境づくり	つどいの広場の設置	1カ所	1カ所	3カ所
	放課後児童クラブの設置	22カ所	23カ所	23カ所
	子育て支援総合コーディネーターの配置	—	—	実施
国際交流や国際協力 の取組みの推進	日本語学習支援ボランティア 養成講座受講者数(累計)	94人	150人	300人

(注)目標欄にカッコ書きで表記されている年度は、他の計画により定められている目標年次です。

今後も皆さんの一層のご理解とご協力をお願いします。

第1回 いきいきセミナー



演 題 「忙しい!私にもできるまちづくり~まちづくりの第一歩~」
講 師 原田 弘子 さん
日時・場所 平成26年9月13日(土) 13:30~15:00 三原中央公民館
企 画 みはらウィメンズネットワーク



三原市では「人がふれあい、ともに参画するまち」として、男女共同参画社会の実現を目指し、男女共同参画セミナーを開催しています。

平成26年度第1回いきいきセミナーは原田弘子さん(株)まちづくり三原・タウンマネージャー)を講師にお迎えし、10年後、20年後の三原市の中心市街地はどのような役割を果たしていくべきかを共に考えてみました。

原田さんは、まちづくりを手掛けた呉市や府中市の成功事例を取り上げ、タウンマネージャーの仕事はまちの強みを見つけ、市民がやりたいこと

を吸い上げ事業に結びつける調整役と説明されました。

「三原市は、市の中心に住む人口が減少することなく増加している。住みやすい・暮らしやすいまちを創出するには、商店街の活性化だけではなく、いつも何か面白い事が起きているまちのイメージを作り上げ、まちづくりの担い手である市民にまちを愛してもらいたい。まちづくりに興味をもつ市民が増え、日々の生活が豊かに楽しく充実したものになり、まちに誇りを持つ人が増えることを願っています。」

第2回 三原いきいきセミナーのご案内

日時 12月6日(土) 13:30~15:00

演題 『「全然大丈夫じゃない!」自分を受け入れる力』

会場 三原中央公民館 第1研修室

定員 70人(先着順) 参加費無料

講師 田野浦小学校 非常勤講師 田坂真理さん

三原市男女共同参画推進条例制定記念講演会

アナウンサー夫婦奮闘物語「男女共同参画と震災取材」



講師プロフィール

かさい しんすけ
笠井 伸輔さん

1963年 東京都杉並区生まれ
1987年 早稲田大学商学部卒業

同年4月テレビ局入社、現在編成制作局アナウンサー室在籍、「とくダネ!」の司会を務めている。

10月5日リージョンプラザにおいて、講師に笠井さんをお招きしての「三原市男女共同参画推進条例制定記念講演会」が開催されました。

自身のことを「家族のことを話す珍しいタイプのアナウンサー」と紹介された笠井さん。子供の出産を不安がる奥さんに頼まれ、仮病を使って仕事を休み妊婦検診に付き合ったこと。立ち会い出産をするために生放送を休もうとすると上司の逆鱗に触れ諦めかけたが、女性同僚のおかげで実現できたこと。などの家族に関するエピソードを柔らかい表情で話されました。

また、彼自身も結婚するまで身の回りのことは何も

したことがなかったそうで「いつの間にか育児の渦に巻き込まれていた」とか「やらないと気の強い妻に怒られるから、おっかねえ共同参画から始まったのかも」などとユーモアたっぷりの話に、会場のあちらこちらで笑みがこぼれていました。

東日本大震災の取材を通じての話では、当時を思い出し時に言葉を詰まらせながらの姿に、多くの方がじっと聞き入っているようでした。

また、現地取材で「大きな地震が来るとして建物は丈夫にしてある」と話す東北の方とは対照的に、広島市の土砂災害地区の方は「まさかあの山が崩れるとは思わなかった」と話す方が多かったそうで、私たちの災害に対する備え・心構えについて考えさせられました。

『家事・育児に具体的な分担を決めるのではなく気づいた方・できる方がする』『お互いがお互いを思い、尊重・協力する』という笠井家のスタイルは、家事・育児に限らず、看護・介護・地域コミュニティなどにも共通するよう感じました。

だれもが安心して心豊かに暮らせる社会をつくるために、自分にできることから少しずつ始めてみてはいかがでしょうか。

三原市男女共同参画社会づくり表彰

4組の個人や団体を表彰



市民の部
坂本 和子 様



市民団体の部
みはらウィメンズネットワーク 様



事業者の部
株式会社エヌワイティグループ 様



教育に携わる者の部
村上 孝治 様

平成26年10月5日に、三原リージョンプラザにおいて、男女共同参画に積極的に寄与された4組の個人や団体が表彰を受けました。そこで、その表彰者の皆様へ、これまでの取り組みや今後の抱負などインタビューを行いました。

■市民の部

坂本様 みはらウィメンズネットワーク会長を2005年から4年間務め、各種審議会委員を経験した、これまでの活動が評価されたものと、とてもうれしく思います。私は広島県下で広く活動^(注)していますので、今後もそこで入手した幅広い様々な情報を伝えていきたいと思っています。

(注)(公財)広島県男女共同参画財団評議員
広島地方裁判所労働審判員
広島県青少年健全育成審議会委員
などを務めておられます。

■市民団体の部 みはらウィメンズネットワーク

松本様 みはらウィメンズネットワークは、地域における男女共同参画の推進に向けての活動を展開することを目的とし、平成13年10月17日に発足しました。三原地域の女性団体9団体が加入しており、会員数は平成26年度現在、6,914名です。

この度の受賞は、意識啓発の活動としてのセミナーの開催や講演会の企画、各種審議会における女性の参画推進を担当課とともに協働で取り組んできたことや市民と行政のつなぎ役として出前講座やミニ集会の機会を充実させたことなどが、行政の施策の検討や提案に繋がる活動として実績を高く評価していただきました。

今後も地域貢献として男女共同参画社会づくりの推進に取り組んで参ります。

■事業者の部 株式会社エヌワイティグループ

岩本様 男女共同参画とは互いを認め合う人間の尊厳だと思っています。その尊厳がないと社会は成り立っていきません。安倍総理も積極的な女性登用を提唱されていますが、現在は女性が社会進出しないと成り立たない世の中になっているのではないのでしょうか。

私の会社では8割から9割が女性社員です。女性は柔軟性、決断力、判断力に長けており、バランスよく複数のことがこなせ、お客さまからとても信頼されています。その能力を伸ばすためにトップダウンではなく自ら判断して決めてもらうようなシステムを導入しています。その効果の一つとして、社員の提案で会社の周りや駅前の清掃活動を行っています。また、子どもの時から家事は男女ともにやるものという意識を身に付けてほしいという思いで、西小学校の2年生の社会見学を受け入れています。

今後も引き続きこういった取り組みを行なっていきます。

■教育に携わる者の部

村上様 1975年から三原市内の幼稚園・小・中学校で教師をしてきました。現在は、下関にある梅光学院大学の子ども学部で保育士や幼稚園・小学校の先生を目指す学生達の指導を行っています。また、これまでの人生で人権教育にも深くかかわってきました。そういった点を評価して頂いたものと理解し、感謝しております。

今後の展望ですが、現在の学校教育は行き詰まっていると感じております。吉田松陰が開いた松下村塾のような、教師の相談窓口となるような門戸を開きたいと考えております。そうすれば、ひいては子ども達に良い教育が還元されると思います。

編集 後記

広島土砂災害・御嶽山の噴火・二週つづきの台風襲来と大災害が続きました。三原市の地域防災計画には「男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立に努める」という文言が明記されています。地域や家庭においてもいま一度、この視点をもってしっかり話し合い、いざという時に備えたいものです。